

Q6： 防災教育において、「危険回避能力」を育成するためには、どのようなことに留意して取り組めばよいですか。

はじめに

各学校では、学校安全に関する指導計画や危機対応マニュアルを作成し、事件や事故、災害等が発生した場合に、児童生徒や教職員が適切に対応できるように避難訓練や研修等を実施しています。

ここでは、東日本大震災を踏まえ、児童生徒には「どのようにして危険回避能力を身に付けさせるのか」など防災教育の具体例を紹介します。

「危険回避能力」を育てる視点

キーワード

- ①予測
- ②回避
- ③主体性

まず、「危険回避能力」とは、「自ら危険を予測し、回避する能力」のことです。自ら危険を**予測**するためには、専門的・実践的な知識の習得や自然体験等により、危険の存在に気づき、どのような結果が予測されるかをイメージする能力が必要になります。「大丈夫だろう」という思い込みは危険です。

また、自ら危険を**回避**するためには、上記の危険予測に基づき、迅速かつ的確に意思決定し、より安全な行動を選択する能力、**主体的に行動**する態度が必要になります。躊躇せず、勇気をもって避難する、そして、自分のできる最大限の行動を取ることが大切になります。

「危険回避能力」を育てる場面と方法



「落ちてこない」「倒れてこない」
↓
どんな場所？

「地震速報が鳴ったよ!」
↓
どんな行動をとればいい？



(1) 安全マップ作り

児童生徒の発達段階を考慮し、防災の目的等に沿って、以下の点等に留意して、児童生徒に安全マップを作成させることも一つの方法です。

- ・現地に行って、自分の目の高さで見る。
- ・市街地や山村部など場所や地形等を、総合的に判断させる。
- ・学校だけでなく、保護者や地域の人々と連携して作成する。 など

(2) 避難訓練

①従来の避難訓練の強化

各学校において、「おかしも」の定着など、基礎的な訓練を確実に行うことは重要です。

さらに、教職員や児童生徒等に予告なく行う、地域や保護者の参加を得て行うなど、より実践的な内容にするための工夫も大切です。

「おかしも」とは、

- ・おさない
- ・かけない
- ・しゃべらない
- ・もどらない

②「朝の会」「帰りの会」等を活用した訓練の導入

- ・校舎内で「落ちてこない」「倒れてこない」という場所を瞬時に判断し、避難できるよう、短時間でできる訓練を適時実施することも重要です。
- ・写真等を活用し、場面分析をして判断力等を高める方法もあります。

③緊急地震速報を活用した訓練の導入

- ・気象庁から配信された「緊急地震速報」を自動的に校内放送等で児童生徒に伝えられるようシステムを整備し、「受信してから数十秒の間に、どのように行動するか」とるべき行動を検討して、訓練を実施します。

④指導に当たっての留意点

訓練等を効果的に実施するためには、以下の点に留意します。

- 課題を自分のこととして意識していますか。 【問題の把握】
- 提示された問題場面について危険を予測していますか。 【場面分析】
- どうすれば危険を回避し、安全に過ごせるかを考えていますか。 【仮説設定】
- 自分の考えた行動が安全かどうか確かめていますか。 【検証】
- めあて(自己行動)を決めて実生活に生かしていますか。 【適用】

(3) その他

- 避難訓練等と各教科・領域等との関連を図って指導することで効果が高まります。
- 自然体験活動等を適切に実施することで、自然界の恵みや厳しさ、危険の存在に気付くことができます。
- 「災害発生時には、どうすれば自分の命を守るか」など、普段から家族でも話し合いをすることで、思考力・判断力が高まります。